

説教

聖日礼拝 北浜チャーチ  
黒田 禎一郎

2017年9月3日(日)

主 題：「最も近い人はだれですか」

ー関係に鍵があるー

テキスト：ヘブル人への手紙10章11～25節

**はじめに**

- ・もうしばらく前になりますが、私は次のような話を聞きました。  
和歌山で一人の老婦人が、孤独死しました。彼女は身寄りがなく家族は誰もいませんでした。一人住まいで、静かに召されていきました。そういう婦人でしたから、彼女が亡くなったことも、死後しばらくして発覚したほどでした。
- ・彼女の葬儀は田舎のことで、近所の人たちが身寄りのない彼女の葬儀を行いました。それから、しばらくしてから近所の人たちが、彼女の家の後片づけを始めました。すると押し入れから、手がつけられてないお歳暮や贈物が、次々に出てきました。大切に置いていたようでした。彼女は自分の生活をきりつめ、つつましく生活していました。
- ・すると、押し入れの奥の方に現金が置かれているのが発見されました。現金で1千万円以上(当時の金額では相当なもの)でした。
- ・さあ、この現金をどうするか・・・?でした。近所の人たちは驚きました。しばらく時間が経過すると、突然親戚の者という人が現れました。その人は「大金があった!」と聞いて、やってきたのでした。(それまでは顔を出しませんでした。)  
これを聞いた近所の人たちは、憤慨しました。その後、私はそのお金がどうなったか分かりません。
- ・皆さん!これが人間の姿ではないでしょうか。  
私たちの関係は、損得(利益)につながることも多いと思います。自分の利益となることには、一生懸命です。そのため失敗し、大損することもあります。痛い経験をすると、もう関わりたくない!と心に決めるのです。
- ・一般的に、人間関係には「近い関係」と、「遠い関係」があります。それは自らの経験から、関係ができるのです。「近い関係」とは、良い経験(自分に益となる)をすると、その人との距離間は短くなり「近い関係」になるものです。反対に、不利益な経験をすると距離を置き、「遠い関係」となるものです。共通項は、自分が中心であることです。
- ・それでは、私たちにとって最も「近い関係」の人とは誰でしょうか・・・?  
イエスは言われた。ヨハネ福音書  
15:14 わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行なうなら、あなたがたはわたしの友です。  
15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。
- ・イエスは、じつは私たちと近い関係を持つことを願っています。  
「近い関係」とは、相手がよく分かることです。何を考えているか、これから何をしようとしているか、分かる関係です。
- ・今日、私は「近い関係」について語りたくと思います。 2点

**大切なポイント**

1 キリストの確かな救いを確認しなさい

- 先ず申し上げたい点は、私たちが神の救いをどう感じるかは、全く問題ではないことです。しかし、私たちはこの点でよく失敗するものです。イエスによって救われた、イエスによって聖くされた、全き者とされた、と言われても、現実の自分を見るとまだまだ不十分であるからです。
- 私たちは、すぐに腹を立てたり、不平、不満、眩きを繰り返します。また人を裁いたり、人を傷つける言葉を言ったりします。恨み、憎しみ、妬みが湧いてきたり、汚れた思いを抱いたり、ウソをついたりもします。その現実を見ると、クリスチャンになる前と、あまり変わりがないように思えるのです。ある時は、他人からもそう言われることがあります。ガックリしてしまいます。そして、自分は救われていないのではないかと思います。
- しかし、ここで大切なことは、私たちが自分の救いをどう感じるかではないことです。これはしっかりと覚えていなければなりません。不完全な自分の姿は現実であり、それが自分であることは否定できないことです。無視はできない事実です。
- しかし、自分はみじめな存在であり、失格者で駄目であると、考えてしまうならば、自分がどう感じるかというレベルになるのです。自分を問題視している限り、神の救いは分からなくなります。神の救いは、私たちの意志とか感情にあるものではありません。どのように感じようと問題ではありません。神がどう語っておられるかが重要なのです。聖書は次のように語っています。
- **10:14 キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。**
- **10:17 「わたしは、もはや決して彼らの罪と不法とを思い出すことはしない。」**
- ここで大切なことがあります。

### 1) 救いは思い込みではない

神の救いとは、私たちの今の現実、今の状態がどうであろうと、イエス・キリストが十字架の御血によって、罪が赦され、聖なるものとされたことを、信じるということです。それが救いです。

- 皆さん。このことは信仰による思い込みではありません。思い込みには、なんの裏付けも必要としません。イエス・キリストの十字架の死に裏付けされた救いであるからです。ですから、私たちが救われたということは、もう二度と裁かれることはないということです。
- 私たちが二度と裁かれることはないという証拠は、イエス・キリストが十字架上で裁きを受けてくださったからです。その裏付けとして、聖書は次のように言っています。
- **10:17 「わたしは、もはや決して彼らの罪と不法とを思い出すことはしない。」**
- これほど素晴らしい救いは、世界のどこにもありません。これが神の恵みである福音です。

### 2) 神のご計画

- イエス・キリストが十字架で死なれたのは、地上生活における何かの手違いから、十字架につけられたのではありません。当時の弟子たちが、もう少ししっかりしていたならば、イエスは十字架に付けられずに済んだのでもありません。
- またローマ総督ピラトが、もう少ししっかりしていれば、イエスは十字架につけられないで、済んだのでもありません。そうではありません。それは神のご計画でした。
- 神の御子イエス・キリストが天から降りてこられ、人となって地上の生活をされ、ついに十字架につけられて死なれたことは、永遠の昔から神の御心の中にあったことでした。

- ・神の御子イエスによる救い以外には、救いの道はないことを、神はよくご存知でした。神はそのことを旧約聖書の中で預言を通して、何度も繰り返し語ってこられました。旧約聖書は、じつはそのために書かれたと言っても過言ではないでしょう。そこには神の忍耐、あわれみ、赦し、喜び等が書かれています。
- ・イエス・キリストは確かに、約2千年前にこの世に来られ、30数年の地上生活を過ごされました。そして十字架上で死なれました。それは、私たちの罪の贖いを成し遂げるためでした。イエスは旧約聖書時代のように、不完全な動物ではなく、完全なご自身の体を神への捧げものとして、お捧げくださいました。そして死んで三日目に、復活を通して神であることを証明されました。ですから、救いはイエス・キリスト以外にはないと断言できるのです。使徒の働き

4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。

- ・私たちは、神のご計画による救いを素直に認めて、イエス・キリストを信じるならば救われます。この救いこそ、神の恵み以外の何ものでもありません。私たちの功績などは少しもありません。神が用意してくださった、一方的な贈物、神の恵みであります。

## 2 神に近づこうではないか

### 1) 旧約時代は神に近付かなかった

- ・旧約聖書時代、人々が神に近づく場合、じかに神に近づくことはできませんでした。祭司は一般の人々を神に近づける役割を果たしましたが、祭司であれ、大祭司であれ、儀式上では人々と神に近づけることはしましたが、実際に神に近づけることはできませんでした。
  - ・神がお会いしてくださる至聖所には、大祭司が年に一度動物の血を持って入る以外、入ることは許されていませんでした。しかしイエスは、「聖所と至聖所の間を隔てていた垂れ幕を取り除き、私たちが神のもとに自由に行けるように」、道を開いてくださいました。マタイ福音書 27 章
- 27:51 すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。

- ・今、私たちはイエスの御血の力によって、神の聖所に入り、神と交わりを得ることができるようになりました。大感謝！
- 10:19 こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所にはいることができるのです。
- 10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。
- 10:21 また、私たちには、神の家をつかさどる、この偉大な祭司があります。

### 2) 信仰の確信

- ・信仰生活において、確信を持つことは重要です。それがないと、信仰はいつも揺れ動いていなければなりません。この確信は救いの確信とも言えます。この確信は良心の呵責から解放されて、与えられるものです。

- ・そこにはみ言葉の保証があり、神への信頼があります。ですから、著者は7章1節から10章18節にかけて、大祭司イエスが成してくださった重要な教理を説いてきました。イエス・キリストがいかにか、頼り甲斐のある救い主であるかを述べてきました。
- ・ですから、私たちの信仰が揺るぎないものとなるためには、私たちの救い主について知ることが必要です。信仰を鍛えるとは、信仰の確信を持つことです。それはこのお方こそ、本当に信頼できるお方であることを知るようになることです。救い主イエスを見ること、救い主イエスを知ること、救い主イエスを信頼すること、それが信仰の確信へとつながります。
- ・自分を見つめているだけで、信仰は強くなりません。自分から目を離し、救い主イエスを見ることです。しかも、しっかりと見ることです。救い主について知らなければ、信仰の確信が持てないのは自然なことでしょう。
 

10:22 そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。

10:23 約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。

### 3) 互いに勧め合いなさい

- 10:24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。
- 10:25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。
- ・著者はここで、大切なことを言っています。互いに勧め合って、どのようにしたら他の人を愛し、助けてあげることができるかということについて、心配りをすること勧めました。
- ・皆さん。クリスチャンが一人で信仰生活をしていくと、どうしても独り善がりになります。どうしてもクリスチャン同士の交わりは必要です。その中で最も大切な交わりは、教会です。教会は霊の家族であるからです。
- ・他の人と一緒に生活すれば、必ずぶつかることがあります。良い意味でのぶつかり合いは、むしろ必要でしょう。ここで「互いに勧め合って」とありますが、この言葉は「切磋琢磨し合う」という意味です。
- ・聖書は次のように教えています。箴言18章
 

18:1 人と交わりをしない者は口実を捜し、すべてのよい考えに激しく反対する。

口語訳
- ・一人の人間が健全に成長していく上で、家庭ほど大切なものはありません。そこには父、母、兄、姉、弟や妹がいます。信仰の先輩たち、信仰の後輩たちです。そこで信仰の健全な成長があるのです。
- ・信仰生活を送っていくと、とかく独り善がりになりがちです。あまり好ましくない人、むしろ嫌な人のいる所でこそ、自分の信仰は鍛えられ、健全に成長していくのです。「教会へ行っても疲れるばかりで、いくら礼拝や祈祷会に出ても、問題は少しも解決されないではないか。」と言って集会を休む人がいるかもしれません。
- ・しかし、礼拝や祈祷会で主に取り扱われ、変えられる人はいくらかもいます。主がご臨在くださる所で、主が働いてくださるからです。

- 皆さん。信仰生活を自分の力によって励むのと、信仰によって励むのと、どのような違いがあるのでしょうか。自分の力によって歩む人は、そうしなければいけないと義務感からそれをします。しかし、信仰によって励む人は、原動力が自分のうちからではなく、信じる神から来るのです。
  - 私たちが何かを励む場合、そこに一つの目標があるからできるのです。目標に向かっての緊張は、そう長く続くものではありません。それがスポーツであれ、勉強であれ、仕事であれ、皆そうです。一つの目標に達したら、少し休まなければなりません。
  - しかし信仰生活は一生涯のものです。スポーツのように、一つの目標に達したら休むという性格ではありません。一生涯やり続けなければならないものです。それだけに自分の意志や努力で続けられるものではありません。ですから著者は次のように言いました。
  - **ヘブル人への手紙 1 2 章**
    - 12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。
    - 12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。
    - 12:3 あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。
- 主イエスを見続けることです。それが神に近づく道です。

- 神は遠い所におられるのではありません、しかし、私たちの心が神から離れていると、神を近くに感じることはできません。いつも神のことを思っている人は、たとえ職場で仕事をしている時であっても、家で家事をしている時も、また学校で勉強している時も、事ごとに神の助けを求めて祈り、行動します。
- 聖書を読んだり、教会に行っている時だけ神のことを思っているならば、いつも自分の頭で考え、自分の力でしようとするものです。問題に出会うと、どうしたら良いか分からなくなります。失敗を繰り返してしまいます。
- しかし、神に近づく生き方をしている人は、神がいつも共にいて、問題を解決してください。なんとという幸いではありませんか。聖書は次のように勧めています。

## 2 テモテへの手紙

「ダビデの子孫として生れ、死人のうちからよみがえったイエス・キリストを、いつも思っていなさい。これがわたしの福音である。」 2:8

## ま と め

主 題：「最も近い人はだれですか」  
—関係に鍵がある—

- 今日、主は私たちにお語りくださいました。大切なことを2点にまとめます。

### 1. 信仰の確信を持ち続けなさい

10:22 そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。

10:23 約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を

告白しようではありませんか。

2. 互いに勧め合いなさい

10:24 また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。

\*God bless you!